

令和5年度 北区立梅木小学校 自己評価報告書

北区立梅木小学校 校長 大木 秀政

自己評価の結果と分析並びに改善の方策

本校では、前年度との比較で、課題の把握及び次年度の改善すべき事項を数値化し明確にした。自己評価項目に対して以下のような4段階で評価を行っている。

- A (4点)概ね達成できている
- B (3点)具体的な活動がなされており、成果も現れている
- C (2点)具体的な活動がなされているが成果が現れていない
- D (1点)具体的な活動がなされておらず成果も現れていない

コロナ禍が明け教育活動の多くも以前のようにできるようになった。一方でこの一年間は全てを元に戻すのでは無く、行事等の精選や検討をし、教職員間の共通理解を図りながら取り組んできた。活動を進めながら改善をしていくことで、何が梅木小学校にとって一番大事かと考えを深めていった。保護者や地域からの信頼に応えられるよう、今後も以下に評価結果・分析と改善の方策を示し、次年度へとつなげていく。

節	項目	評価の視点	R4	R5	評価結果・分析	改善の方策
教育課程の編成	教育目標	学校・月目標の意識化	3.4	3.3	年間の指導目標や計画に基づいて計画的に取り組めた。「うめのキッズカリキュラム」を作成するなど、学校独自の年間指導計画ができつつある。今後も教育目標の具現化に向けて意図的・計画的に進めていく。	「うめのキッズカリキュラム」を校内研究と関連しながら作成し、学校の持ち味を生かした指導をしていく。
	教育計画	生活時程・時間割配当・学校行事の運営	3.4	3.3	学校行事が無理なく進められるように工夫して計画的にした。概ね予定通りできた。	行事と行事の関係性をよく考えた時間配分等を行い、余裕のある取組ができるように計画する。
	経営方針	健全な教育環境 職務の合理化	2.8	2.8	会議の頻度は適度であるが、文書管理の整理ができておらず、必要なものをすぐに取り出せるように改善が必要である。また、欠員があったため、校務を少ない人数で補った。	学校整備日を設けて、計画的に整理する。チームで仕事ができるように構成し、業務が引き継げるシステムを構築する。
教育課題対応	人権教育	人権尊重教育年間計画、適切な指導	3.4	3.1	年間指導計画により人権指導日の月目標を確認して進めた。しかし、教員ごとの指導には差もあり、どのクラスも同じように指導することが必要である。	人権指導についてのOJT研修を行い、どのクラスも同じように指導できるようにする。
	特別支援教育	校内委員会や巡回指導、SCとの連携	3.3	3.3	校内支援委員会において配慮が必要な児童の日常的なケアを話し合った。臨時的校内支援委員会を開いたり、区・都SCやSSWと連携したりと多面的な支援を行った。	今後も学校だけでなく、関係機関と連携を取りながら、児童を幅広く支援していく。
各教科	授業改善	授業改善プランを生かした指導法改善	3.2	3.0	授業改善プランは作成し実践したが、その後の効果を検証するなどの機会が無い。	年度末に効果検証する報告日を設けて、指導の効果や児童の変容を確認する。
	学び合う学習	学び合いを生かした主体的な学習の展開	3.3	3.1	校内研究の研究テーマで共通して児童が主役の授業づくりをしてきた。一方で、共通の教科ではないため、深まりに課題が見られた。	次年度は総合・生活科に教科をしぼり、教材開発や年間指導計画を作成する。ICTも効果的に活用しながら、主体的な学習展開を行う。
道徳	計画と準備	副読本・教材、魅力的な資料の活用	3.4	3.5	道徳主任による梅木小学校を題材にした教材の模範授業やOJTによる評価の在り方を研修できた。	OJT研修を開いて授業改善を図る。
特別活動	委員会活動等	クラブ、委員会活動への主体的な参加	3.5	3.4	異学年による交流活動をほぼ計画通り実施できた。	クラブ、委員会数を教員の人数に応じて変えていき、安全に活動できるように改編する。

節	項目	評価の視点	R4	R5	評価結果・分析	改善の方策
総合	総合的な学習	授業の振り返り「自己の生き方」	3.2	3.4	「うめのキッズカリキュラム」により、総合の単元開発が必要であることを共通理解できた。次年度に指導計画を作り直すことが課題である。	校内研究の中心として単元開発を取り上げ、授業研究を行う。
特色教育	特色ある教育活動	オリ・パラ教育の適切な実施	2.9	2.8	レガシーアワード校として6年生のあいさつ当番や全校地域清掃などを行った。	学校レガシーを継続しつつ、ボランティアマインドや伝統文化についての学習をより充実させていく。
生活指導	生活指導	配慮を要する児童についての情報共有	3.1	3.3	毎週の生活指導夕会で、配慮を要する児童の現状を伝え合い、共通認識のもとに具体的な対応や今後の働きかけ等について考えた。	年度初めに、顔と名前が一致できるように顔写真のファイルを複数作成し、共通理解ができるようにする。
生活指導	安全指導	避難訓練・セーフティ教室	3.6	3.5	避難訓練やセーフティ教室を計画的に実施できた。登校班の運営は工夫・改善が必要である。職員数が減っている中で、どのように安全に運営していくかが課題である。	避難訓練等は今後も実際に即してできるように検討を重ねていく。登校班は1年間通して運営を検討していく。
研修	研修	校内研修の内容	3.2	3.3	服務事故防止やICT活用、生活指導等の研修を適宜実施した。OJTについては、月1回の教員ミニ研修会の開催を行った。	主任教諭連絡会を中心にOJT研修を計画的に実施する。
施設設備	施設	体育館や校庭、プールの管理・修繕	3.4	3.5	概ね達成できているが、多目的室や三角部屋等、整備が必要な部屋がある。使いやすい環境を整えていく必要がある。	用途に応じた部屋の整備を計画的に行う。環境整備日を設定し、すぐに使えるようにする。
組織運営	組織	企画会・職員会議の内容・運営	3.3	3.3	会議等の回数は適度にできている。企画書をあげる流れに課題があった。	起案の流れを年度初めに確認し、職層を生かして報告・連絡・相談をする。
学校・家庭・地域との連携	家庭	土曜公開日授業参観学校公開日の設定運営	3.6	3.7	保護者アンケートでも高い評価をいただいた。今後も適切な学校公開を実施する。	運動会を熱中症対策のため秋開催に変更する。児童が安全・安心して通えることを基準にする。
		保護者会・懇談会個人面談の設定運営	3.6	3.6	授業参観ありの保護者会を実施した。個人面談も年間の計画通りに実施した。また、必要に応じて臨時的保護者会も行った。	できるだけ対面による説明を行い、分かりやすく、確かな情報を伝えていく。
	情報公開	配信メールやHPの内容更新状況	3.1	3.2	昨年度に比べると学校・学年だより、行事の様子、学習の様子をアップできた。しかし、更新頻度に課題が残る。	定期的に更新する仕組みを作り、最新の情報や教育活動の様子を発信していく。
		通知表の様式、内容の分かりやすさ	3.2	3.4	保護者アンケートでも90%以上が肯定的な評価をいただいた。今後も児童の様子を適切に分かりやすく伝えていく。	保護者会での説明も確実に行う。